

平成 30 年度第 3 回島田市文化芸術推進協議会 議事概要

1 日時 平成 31 年 1 月 18 日（金） 午後 2 時～午後 4 時

2 場所 市役所会議棟 2 階 D 会議室

3 出席者

(1) 委員

松本委員、森澤委員、岡村委員、小栗委員、岸委員、片川委員、高橋委員、
松永委員、山本委員（10 人中 9 人出席）

※欠席委員 沼田委員

(2) 事務局

教育部文化課 太田課長、新聞課長補佐、石間主査、杉野主事

(3) 傍聴者

2 名

4 概要

(1) 開会

(2) 報告事項

次の点について事務局から報告した。

- ・島田市文化芸術推進計画づくりのイメージについて
- ・島田市文化芸術推進計画策定フロー
- ・市民意識調査（アンケート調査）について
- ・事業所意識調査（アンケート調査）について
- ・文化団体へのヒアリングについて

※委員からの意見等はなし。

(3) 協議事項

(1) 現状と課題認識について

- ・市民等意識調査から読み取れる課題等の検討
- ・課題解決のためのキーワード出し

(2) 課題解決に向けたコンセプトの検討

「○」 委員からの意見・質問等

「→」 事務局からの回答等

- ：本日は委員の皆様の見解から、計画のポイントになりそうなことを拾い出し、計画のイメージを作っていきたい。
- ：アンケート結果については、想定されていた内容であったと思う。同規模の市町と同様、行動を起こす「きっかけ」を見つけ出すことが難しいと感じた。
資料1については、基本理念はミッションであり、島田市の使命、どのようなことを実現していくのか、未来永劫それに向かって進めていくスローガンのようなものが入ると思う。
次に入るのが中長期的なビジョンになり、理念を実現するための指針があればいいと思うので、目標とするかは議論の余地があるのではないか。文化・芸術に関わる指標、文化施設であれば鑑賞者、来場者等、数値で表せるものがあるれば解り易いが、市の計画では数値の指標を示すことは難しいと思う。
理念や目標に向かってどのような事業を行うかが大事であると思う。
これからの計画であれば、社会包摂を踏まえ、障害者による文化・芸術の活用を入れた方が良く思う。
- ：アンケート結果を見ると、情報発信方法の再構築は取り組むべきことであると感じた。今は興味のある人だけが情報が得ることができる状況にあるように思う。多くの人に情報を届けるためには、広報紙以外にも充実させていく必要があるのではないか。
- ：情報発信のほか、幼稚園や保育園等で事業を実施する等、幼いうちから文化・芸術に触れる機会を作っていくことが大切ではないか。
- ：情報の発信方法が変われば良くなると思う。まつり等は「ただ騒いでいるだけ」と思っていた人が、実際に参加することで考えが変わることがある。興味を持ってもらうことを待つより、参加してもらう方法を考えることが大切ではないか。子供や市外から来た人に、いかに関わりを持ってもらうか、コミュニティーのイベントにいかに参加してもらうかといった視点で考える必要があるのではないか。
- ：アンケート結果の中にある、「子育てや介護で行く暇がない」、「文化・芸術は自分に関係のないもの」と感じている人こそ、文化・芸術に関わりを持ってほしい。文化・芸術は敷居の高いものではなく、心豊かにしてくれるものだということを伝えていく必要がある。
「島田には魅力がない」と諦めている市民の意識を変えて、良い方向へ磨いていく必要がある。
- ：「島田って何もない」、「市民会館を建てれば何とかなる」といった意識がア

ンケート結果から見受けられるように思う。何にもないということマイナス方向でしか見ていないのではないか。島田には自然が多くあること、島田の魅力的なことに市民が気づき、情報として発信していく必要があるのではないか。

市外から来た人たちは蓬莱橋や茶畑の景色を喜んでいた。「島田の風景が価値あるものだ」と市外の人に言ってもらうことは、市民の自信にもなり、島田の魅力の再認識に繋がる。

元々興味のある人に島田の情報を探してもらうのではなく、興味のない人にも気づいてもらうためには、どのような情報の伝え方をしたら良いか考えていきたい。

- ：年齢が高くなると文化・芸術に対する満足度が下がるとアンケート結果にあるが、年齢が高くなるとともに文化・芸術活動と関わる時間が増え、文化・芸術に対する意識が高まっていると感じる。満足度が下がったのではなく、求めるものが高まったとの解釈もできるのではないか。

また、若者に対して高齢者がフォローする組織作りが大切であると感じた。

- ：文化会館再建の話はどのようなになっているのか。
- ：島田市役所周辺整備基本構想では、原則としてプラザおおりの建て替え時期に併せて事業化を図ることを検討すると示されている。
- ：文化会館を建設して、ただ鑑賞や発表の場にするだけでは意味がないと思う。文化会館を拠点とし、社会的な課題解決に取り組むことが必要だと思う。アウトリーチ出前講座の拠点としたり、専門家や演出等ができる人材を配置したりして文化・芸術を推進していくことが大切ではないか。本来は文化・芸術の計画の中に理念があり、理念を実現するための具体的な計画があれば文化会館の建設を推進したい。具体的な計画がなければ、客席数等の規模も決まってくれないのではないか。365日の運営を考えれば、専門家等のノウハウが必要となってくると思う。
- ：島田市には合併により600席規模の施設が3つある。
- ：この計画は6年で見直しをする予定であることを踏まえ、まずは島田市の強みを伸ばし、弱みを減らしていく、メリハリのある計画を作っていきたい。アンケートの結果では自然が良いという声が多い様に思う。市外から来た人にとっては蓬莱橋がとても魅力的。大井川は交流の場という印象がある。今ある物に加えて、将来像や夢を盛り込んだ計画にしたい。
- ：蓬莱橋、大井川は島田市にだけあるオンリーワンのものだと思う。
- ：市民の誇り形成という点も大事ではないか。一度都会で暮らし、島田に戻って来た時に「水が美味しい」と感じることもあるのではないか。改めて島田の魅力に気づくこともある。

- ：「水が美味しい」などはどこの市町でも言っているように思う。
- ：S L、蓬莱橋、大井川、川越遺跡などは島田市のみではないか。
- ：個々の活動やイベント等は数多く開催されているが、人が滞留するものにはなっていない。イベントにお金をかけない方がいいのではと思うこともある。
- ：イベントは一過性の物であるから、文化・芸術は根付かないと思う。創造する人、見る人等、常に人が出入りしている文化・芸術の拠点となる場が必要ではないか。場と人材にお金を使うことが大切ではないか。そこに社会包摂機能も存在してくると思う。
インバウンドを目的としてアピール手法を高めること、自然や歴史等今ある物を活かすことも大切ではないか。
アンケート結果に、「文化施設を作ってほしい」、「文化・芸術の鑑賞機会が少ない」、「有名な人を呼んでほしい」等あるが、これを実現するための手段を考える必要がある。お茶等の話もあるが、県外の人から見ればお茶は静岡県であり、市単位で生産地を認識している人は少ないので、島田オリジナルにこだわらなくてもいいのではないか。
- ：どこの市町も交流人口を増やすことは大前提であり、これから魅力的な人の取り合いになるのではないか。どんな理由で島田市に転入してくるのか。
- ：富士山が見えるからという理由で転入する人はいると思う。
- ：自然が豊かであり、大井川の流れも魅力的であると思う。島田市の人は、市外の人を受け入れてくれる雰囲気がある。
- ：大井川をキーワードとして考えても良いのではないか。
- ：大井川は景観がきれい、水が美味しいという印象もあるが、島田市を東西に分断しているようにも思う。
- ：合併が理由であっても、川を挟んで行政区域になっていることは珍しい。
- ：交流、境を超えていくといったイメージに繋がる。
- ：これからは空港も入ってくるのではではないか。
- ：大名行列、S L、在来線・新幹線、高速道路のI C、空港が島田市にはあり、近世から現代までの交通網が全て揃っているように思う。東西交通の結節点であり、空港がある事で海外とも繋がっていくのではではないか。
- ：文化団体が世代毎に分かれて活動しているように感じているが、多世代交流をすることで継承ができるものもあるのではないか。
次の世代に文化・芸術の楽しさを伝える必要がある。世代を超えて、様々な人と交流することが島田の文化・芸術の礎になるのではないか。
- ：特産品等はあるのか。

- ：島田の歴史を調べたことがあるが、特産品と呼ばれるものがない。大井川の川留め文化で、西の物も東の物も簡単に手に入ったためと考えられている。
- ：事務局側から何かあるか。
- ：東西の交通の結節点でありながら、川留めにより栄えてきた文化もある。文化だけでなく、他地域の人々を受け入れてきたという歴史もある。その辺を島田の特徴として捉えていきたい。
- 本日の意見を何分類かにまとめ、策定委員会に報告、ワーキングで検討を行っていく。次回協議会では柱建てした案を示させていただく。

(4) その他

- ・ 本日の協議内容を踏まえ、骨子案の作成を進めていく。
- ・ 次回の推進協議会は2月21日を予定している。

(5) 閉会